

野毛山動物園で実施している普及プログラムについて

山田晃代
(横浜市野毛山動物園)

野毛山動物園における学校対象の普及プログラムは、来園プログラムの利用者が増加傾向にある。今後、更なる来園者数獲得の観点からも、従来の出張プログラムから移行し、来園プログラムの充実に注力したい意向がある。しかし、屋外実施に起因する雨天時の不催行リスクや、遠足で来園する小学2年生への利用の偏りが大きな課題となっている。今後は、他学年や未就学児層へのアプローチ拡大、当園の特性を活かした独自企画の開発、および学年単位の人数を収容可能な100人規模のレクチャールームの整備が必要である。

一方で、今後想定される2年間の休園期間を見据えた場合、出張プログラムの拡充も同時に不可欠となる。出張プログラムにおいては、教科書準拠企画が高需要を示す一方、カリキュラムとの連動性が低い企画は需要がほとんどなく、学校教育への確実なコミットメントが求められる。今後は、高学年層の授業内容から派生した企画など、新規プログラムの開発による対象拡大を図る必要がある。その他、需要が増加しているプログラムとして、学校との協議に基づき年間を通じて展開する連携授業や、中学生を対象としたキャリア学習などが挙げられるが、対応可能な実施数や受入体制には限界がある。

総じて、今後の普及プログラムにおいては持続可能性を担保すべく、演者を問わず実施可能な再現性を備え、学校カリキュラムに準拠した野毛山独自の来園・出張プログラムを体系化していくことが必要不可欠であると考える。